



## 平成25年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月4日

上場会社名 株式会社 パルコ

上場取引所 東

コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 牧山 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役経理部、事務統括部担当 (氏名) 野口 秀樹

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成24年10月10日

配当支払開始予定日

平成24年10月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年2月期第2四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第2四半期	128,337	3.6	4,858	20.5	4,554	14.8	2,237	9.6
24年2月期第2四半期	123,844	△3.8	4,030	△11.5	3,967	△8.4	2,042	△3.5

(注) 包括利益 25年2月期第2四半期 2,237百万円 (18.7%) 24年2月期第2四半期 1,885百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第2四半期	26.18	—
24年2月期第2四半期	24.79	20.48

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第2四半期	208,339	101,275	48.6
24年2月期	208,697	84,577	40.5

(参考) 自己資本 25年2月期第2四半期 101,275百万円 24年2月期 84,555百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	8.00	—	9.00	17.00
25年2月期	—	9.00	—	—	—
25年2月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年2月期の連結業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	269,000	3.5	10,700	16.7	10,300	14.9	5,200	20.4	55.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年2月期2Q	101,462,977 株	24年2月期	82,475,677 株
② 期末自己株式数	25年2月期2Q	33,247 株	24年2月期	240,250 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年2月期2Q	85,448,028 株	24年2月期2Q	82,361,214 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。また、平成24年10月4日(木)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会の動画については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

(参考) 個別業績予想

平成 25 年2月期の個別業績予想(平成 24 年3月 1 日～平成 25 年2月 28 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	248,000	3.7	10,000	17.3	10,000	9.1	5,400	18.7	57.83

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
(4) 追加情報 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
(6) セグメント情報等 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年の中日本大震災後の景気低迷から、復興需要等を背景に緩やかに回復してまいりましたが、依然として、欧州の金融不安、円高の長期化等の景気の下振れリスクが存在することから、景気の先行きについては不透明な状況が続きました。個人消費につきましては、慎重で堅実な姿勢の一方で、環境や社会貢献に繋がる消費や、より上質なものを求める傾向への消費意識変化が顕在化してまいりました。

このような状況の下、当社グループは、パルコ既存店舗について「都心型店舗」「コミュニティ型店舗」の2業態のグループに再編し、商圈特性に応じた改装と営業企画・販売促進企画展開により改革を進めております。また、新たな事業モデルであるZERO GATE（ゼロゲート）事業及び海外事業において、新店開業に向けた業務を推進するとともに、グループ企業が連動して関連事業及び新規事業の展開を推進いたしました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は1,283億37百万円（前年同期比103.6%）、営業利益は48億58百万円（前年同期比120.5%）、経常利益は45億54百万円（前年同期比114.8%）、積極的な改装推進による固定資産除却損等の特別損失6億75百万円を計上したことにより、四半期純利益は22億37百万円（前年同期比109.6%）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

#### <ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は1,161億77百万円（前年同期比103.6%）、営業利益は44億79百万円（前年同期比121.9%）となりました。

株式会社パルコにつきましては、レディースゾーン強化改装や前期のレストランフロア全面改装が奏功した池袋パルコ、アイテムバラエティを拡充した仙台パルコ、地域密着型のテナント構成を強化した浦和パルコ等の、前期から大規模なテーマ型改装を推進してまいりました店舗の売上高が大きく伸長し、売上高全体を牽引いたしました。また、当期より<PARCOカード>の会員サービスを強化し、新規カード会員5%OFF期間を1ヶ月間から1年間に延長するとともに、通年5%OFFが適用されるクラスS会員になるためのお買上条件を年間20万円から10万円に変更いたしました。これらの施策により、カードの新規入会者数が大幅に増加し、既存会員のカード利用意欲も高まったことで、<PARCOカード>取扱高は前年同期比二桁増と大きく伸長し売上高全体に貢献いたしました。

改装につきましては、都心型店舗では、時代感を捉えたファッションブランドや新業態のショップ等を導入し、ファッションビルとしての情報発信力を高めました。また、コミュニティ型店舗では、引き続きデイリー需要に対応するショップ等の導入で地域密着性を高めるとともに、地方都市においては、旬の都心型ファッションブランドを導入し、パルコの独自性を追求いたしました。この結果、当第2四半期連結累計期間における全店での改装規模は合計約28,000㎡となり、当該区画の売上高前年同期比は116.0%と大きく伸長いたしました。

当第2四半期連結累計期間の主な改装は次のとおりです。

#### 都心型店舗

##### [池袋パルコ]

消費の多様化に対応するため、本館に池袋初出店を含む旬のレディースファッションブランド、バッグの新業態ショップ、話題のオーガニック化粧品ショップ等を導入し、レディースフロアのアイテムバラエティ拡大と情報発信力強化を図りました。

##### [仙台パルコ]

開業から4年経過しマーケットと店舗の親和性が進行するなか、大都市の駅直結という立地を踏まえ、地元消費者の期待に応えるべく、東北地方初出店を含む有力レディースファッションブランド導入によるヤングカジュアルファッションの強化や、スポーツ専門店の新規導入などにより、アイテムの多様化と高質化を推進し、活性化を図りました。

##### [名古屋パルコ]

都市生活者のカップル・ファミリーに向けたライフスタイル提案をテーマに、南館を中心とした大規模改装に着手し、南館にファッション・雑貨・インテリアのショップを、西館に旬のファッションブランド等を導入してアイテムの鮮度とバラエティを強化いたしました。

## コミュニティ型店舗

### [新所沢パルコ]

地域に密着したワンストップ消費型SCを目指し、パルコ館に輸入食品を中心とする食品専門店を導入して、デイリー需要の食品アイテムバラエティを拡充し、集客力とリピート性を高めたことに加え、ファミリー向けカジュアルファッションショップの改装も実施し、買い回り波及効果を高めました。

### [大津パルコ]

多機能ビルとして、地元消費者の幅広いニーズに対応すべく、フードコートの再編を始め、レストラン、食品、カルチャーなどの新規ショップ導入により、集客力と館内の滞留性を高め、全館の活性化を図りました。

また、都心型店舗を中心に継続して秋の改装も進めております。9月～10月の主な改装は次のとおりです。

### [池袋パルコ]

別館P'パルコでは、カップルで買い回りできるメンズ&レディース複合型ビルをテーマに、従来のレディースファッションゾーンの再編に加え、メンズ・レディースファッションの新業態ショップや池袋初出店のメンズファッション、雑貨ショップを導入し、新しいメンズゾーンを編集いたしました。

### [渋谷パルコ]

インキュベーションをキーワードに、パート1に、当社が立ち上げたマイクロファンド「FIGHT FASHION FUND by PARCO(ファイト ファッション ファンド バイ パルコ)」の対象デザイナーの1号店を含めたファッションとカルチャー、アートを融合させた高感度なカルチャーフロアを構築いたしました。また、上層階に、ファッションのみならず、アニメ、フィギュア等の雑貨ショップやソーシャルTV局等のクール・ジャパンコンテンツを充実させ、渋谷を拠点とした日本のポップカルチャー情報を発信するフロアをオープンいたしました。

### [名古屋パルコ]

地元の消費者へ時代感を捉えたファッションを提案し続けるビルとしてさらに進化させ、3館体制の相乗効果を向上させる改装の一環として、南館に有力セレクトショップを導入いたします。これにより名古屋地区におけるセレクトショップの集積は最大規模となります。また、西館では従来のメンズゾーンを再編集することで、カップル、ファミリー需要に対応するとともに、アイテムの多様化と高質化を図ります。

### [静岡パルコ]

静岡マーケットの変化に対し、改めて存在感をアピールするため、エントランス周辺のショップを全面的に刷新し、イメージを大幅に向上させました。また、静岡エリア初進出のセレクトショップやオーガニック化粧品ショップの導入のほか、地元ベーカーリー企業との共同開発による食品の新業態ショップを導入するなど、幅広いアイテムによる上質なライフスタイルを提案いたしております。

### [札幌パルコ]

都市生活者へのライフスタイル提案の強化に向け、キッズフロアをカップル・ファミリー対応の複合アイテムフロアとして再編し、新業態ショップ、道内初出店ブランドによる上質化に加え、授乳室や親子トイレを新設し、環境・機能面でも充実を図りました。

### [宇都宮パルコ]

地方中核都市におけるコミュニティ型店舗の進化モデルとして、地元顧客ニーズの高い先進のファッションブランドをマーケットで初めて導入し、レディースファッションの多様化と高質化を図りました。

国内の開発では、都心部における新たな事業モデルZERO GATE事業につきまして、心齋橋と道頓堀に、それぞれ外資系SPAブランドの出店が決定いたしました。2店舗とも平成25年春にオープンを予定しており、同時期オープンによる相乗効果で、大阪心齋橋エリアにおける地域の活性化と回遊性向上に貢献いたします。

海外事業につきましては、中華人民共和国におきまして、蘇州市に現地法人「百樂和商業諮詢(蘇州)有限公司」を設立し、複合ビル開発事業「尼盛広場プロジェクト(仮称)」内商業施設「NISON CITY MALL(ニーソン シティ モール)」の運営管理に関する業務を、平成25年春の開業に向けて推進しております。

シンガポールでは、当社子会社のPARCO(SINGAPORE)PTE LTDとTextile&Fashion Federation(Singapore)(シンガポールファッション協会)が、SPRING Singapore(企業家育成を支援する政府機関)のサポートにより運営する地元デザイナーの育成ゾーン「PARCO next NEXT」の期間限定ショップを渋谷パルコで展開(3月27日～4月4日)し、当社が取り組む次世代ファッション情報発信との連動を強化いたしました。

また、日本とシンガポール両国の次世代ファッション事業者やクリエイターと連携し、「渋谷」をテーマとした期間限定ショップ、イベント、ビジネス交流会などを平成25年1月～2月にシンガポールで開催する予定です。このプロジェクトは、当社のテナント育成力・編集力や現地でのネットワークが評価され、経済産業省が推進する海外展開支援プロジェクト「平成24年度クール・ジャパン戦略推進事業」に採択されました。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は83億43百万円（前年同期比106.9%）、営業利益は2億6百万円（前年同期比137.0%）となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、オリジナル商品の売上高が大幅に伸長し、環境テーマや社会貢献を絡めた営業企画が好調だったT i C T A C事業とコレクターズ事業が牽引し、売上高、営業利益共に前年同期実績を上回りました。新規出店につきましては、引き続き客層の幅広い商業施設への出店を積極的に進め、T i C T A C 2店舗、ポーカージェイス1店舗、コレクターズの新業態「ノヴェロ パイ コレクターズ」1店舗の計4店舗を出店し、当第2四半期末現在では156店舗体制となっております。

また、顧客サービスの向上を目指し、6月より全業種のメンバーズカードを「ヌーヴ・エイ メンバーズカード」として統合し、全ブランドのショップ及びオンラインストアにてご利用できるよう一新いたしました。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は91億2百万円（前年同期比98.9%）、営業利益は1億74百万円（前年同期比134.4%）となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、前年の大型商業施設改装工事受注の反動等により売上高は僅かに前年同期実績を下回りましたが、外資系ホテルの客室関連業務の新規受託及びパルコを含む商業施設の照明LED化工事の受注や経費の効率化等により、営業利益は前年同期実績を上回りました。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は31億52百万円（前年同期比97.5%）、営業損失は4百万円（前年同期営業利益57百万円）となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、梅田クラブクアトロ（4月13日オープン）開業前期間の売上高マイナスや前期演劇公演の大型ヒットの影響等がありましたが、三谷幸喜氏によるチェーホフの『桜の園』（演出）、初の文楽『其礼成心中』（作・演出）やパルコ出資作品の映画『ヘルタースケルター』のヒットに加え、1つのコンテンツのマルチ企画展開（コンサート・展覧会・CD等）等の施策が売上高を底支えいたしました。また、これらコンテンツは、パルコ店舗やオンラインショッピングモール「PARCO-City」の売上高・集客にも貢献いたしました。

株式会社パルコ・シティにつきましては、We bコンサルティング事業におきまして、商業施設のWe bサイト制作・運営受託業務を新たに3件受託いたしました。また小売事業者のWe bサイト支援業務につきましても順調に推移しております。EC事業におきましては、エンタテインメント事業部と連動したパルコ劇場公演チケットの先行販売等、当社グループオリジナル商品の販売が好調に推移いたしました。また、EC業界で初めてポイントとクレジットの併用決済システムを導入し、9月より、買い物代金の一部を「永久不滅ポイント」で支払できるサービスを開始いたしました。これにより、未使用ポイント利用促進による売上高の向上を図ってまいります。

（注）セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して3億58百万円減少し、2,083億39百万円となりました。主な要因は、減価償却が進んだことによる固定資産の減少などによるものであります。当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して170億56百万円減少し、1,070億64百万円となりました。主な要因は、新株予約権の行使による新株予約権付社債の減少などによるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して166億97百万円増加し、1,012億75百万円となりました。主な要因は、新株予約権の行使に伴う新株式の発行による資本金及び資本剰余金の増加などによるものであります。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して12億1百万円増加し86億39百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益38億79百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し67億51百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、28億81百万円の支出となりました。これは、主に池袋パルコ等の有形固定資産の取得による支出などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、26億77百万円の支出となりました。これは、主に有利子負債の減少や配当金の支払いなどによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成24年4月4日に発表いたしました連結業績予想及び個別業績予想を下記のとおり、修正しております。

<平成25年2月期 連結業績予想>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	274,000	10,700	10,300	5,200	63.19
今回修正予想 (B)	269,000	10,700	10,300	5,200	55.69
増減額 (B - A)	△5,000	—	—	—	—
増減率 (%)	△1.8	—	—	—	—
前期実績	259,789	9,168	8,966	4,319	52.49

(参考)

<平成25年2月期 個別業績予想>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	253,000	10,000	10,500	6,000	72.91
今回修正予想 (B)	248,000	10,000	10,000	5,400	57.83
増減額 (B - A)	△5,000	—	△500	△600	—
増減率 (%)	△2.0	—	△4.8	△10.0	—
前期実績	239,078	8,526	9,170	4,547	55.27

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。



3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,437	8,639
受取手形及び営業未収入金	7,686	7,831
商品及び製品	2,559	2,622
仕掛品	229	337
原材料及び貯蔵品	38	36
その他	5,372	6,719
貸倒引当金	△7	△6
流動資産合計	23,317	26,180
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	119,392	119,351
減価償却累計額	△72,732	△73,746
減損損失累計額	△876	△954
建物及び構築物(純額)	45,784	44,651
信託建物及び構築物	17,209	17,209
減価償却累計額	△1,620	△2,046
信託建物及び構築物(純額)	15,588	15,162
機械装置及び運搬具	1,379	1,394
減価償却累計額	△1,035	△1,051
機械装置及び運搬具(純額)	344	343
信託機械装置及び運搬具	16	16
減価償却累計額	△4	△6
信託機械装置及び運搬具(純額)	12	10
その他	5,315	5,437
減価償却累計額	△3,933	△4,067
減損損失累計額	△90	△107
その他(純額)	1,290	1,261
信託その他	136	136
減価償却累計額	△42	△52
信託その他(純額)	94	83
土地	43,992	44,071
信託土地	19,371	19,371
建設仮勘定	11	51
有形固定資産合計	126,490	125,008
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	788	779
無形固定資産合計	11,738	11,728

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年8月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,702	2,658
敷金及び保証金	41,000	39,474
その他	3,657	3,496
貸倒引当金	△208	△207
投資その他の資産合計	47,152	45,421
<b>固定資産合計</b>	<b>185,380</b>	<b>182,159</b>
<b>資産合計</b>	<b>208,697</b>	<b>208,339</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び営業未払金	16,526	18,086
短期借入金	20,971	14,331
未払法人税等	1,072	1,715
引当金	1,438	1,515
その他	9,679	7,738
流動負債合計	49,687	43,386
<b>固定負債</b>		
社債	1,000	500
新株予約権付社債	15,000	—
長期借入金	21,565	26,717
引当金	1,617	1,669
受入保証金	34,419	34,016
その他	830	773
固定負債合計	74,432	63,677
<b>負債合計</b>	<b>124,120</b>	<b>107,064</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	26,867	34,367
資本剰余金	27,526	35,119
利益剰余金	30,320	31,817
自己株式	△150	△21
株主資本合計	84,563	101,283
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	200	192
為替換算調整勘定	△209	△200
その他の包括利益累計額合計	△8	△8
少数株主持分	22	—
<b>純資産合計</b>	<b>84,577</b>	<b>101,275</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>208,697</b>	<b>208,339</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
売上高	123,844	128,337
売上原価	105,069	108,867
売上総利益	18,775	19,470
営業収入	1,394	1,329
営業総利益	20,169	20,799
販売費及び一般管理費	16,138	15,941
営業利益	4,030	4,858
営業外収益		
受取利息	32	28
受取配当金	48	42
持分法による投資利益	138	—
雑収入	174	146
営業外収益合計	393	217
営業外費用		
支払利息	439	366
持分法による投資損失	—	71
雑支出	17	83
営業外費用合計	456	521
経常利益	3,967	4,554
特別利益		
固定資産売却益	186	—
貸倒引当金戻入額	3	—
その他	23	—
特別利益合計	213	—
特別損失		
固定資産除却損	294	572
減損損失	8	91
災害による損失	103	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	148	—
その他	32	11
特別損失合計	587	675
税金等調整前四半期純利益	3,593	3,879
法人税等	1,552	1,642
少数株主損益調整前四半期純利益	2,041	2,237
少数株主損失(△)	△0	—
四半期純利益	2,042	2,237

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,041	2,237
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△187	△8
為替換算調整勘定	30	7
持分法適用会社に対する持分相当額	—	1
その他の包括利益合計	△156	0
四半期包括利益	1,885	2,237
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,884	2,237
少数株主に係る四半期包括利益	0	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,593	3,879
減価償却費	3,094	2,995
減損損失	8	91
賞与引当金の増減額(△は減少)	109	44
退職給付引当金の増減額(△は減少)	46	51
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△17	—
受取利息及び受取配当金	△80	△70
支払利息	439	366
固定資産除売却損益(△は益)	△118	231
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	148	—
売上債権の増減額(△は増加)	△386	△143
たな卸資産の増減額(△は増加)	△42	△168
仕入債務の増減額(△は減少)	2,116	1,560
その他の資産・負債の増減額	700	△848
その他	△41	155
小計	9,572	8,145
利息及び配当金の受取額	81	70
利息の支払額	△494	△402
店舗閉鎖に伴う支払額	△301	△46
法人税等の支払額	△2,382	△1,015
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,474	6,751
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,605	△2,608
有形固定資産の売却による収入	1,471	1
投資有価証券の取得による支出	△228	△0
投資有価証券の売却による収入	0	5
敷金及び保証金の差入による支出	△30	△525
敷金及び保証金の回収による収入	1,807	833
受入保証金の増減額(△は減少)	△1,414	△579
その他	△47	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48	△2,881
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	2,460	△2,050
長期借入れによる収入	175	8,500
長期借入金の返済による支出	△11,311	△7,979
社債の償還による支出	△500	△500
自己株式の純増減額(△は増加)	△109	222
配当金の支払額	△741	△740
その他	△33	△130
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,059	△2,677
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,617	1,201
現金及び現金同等物の期首残高	12,253	7,437
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,635	8,639

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

株式会社日本政策投資銀行を割当先として発行した、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権が、平成24年8月1日付で権利行使されました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が75億円、資本準備金が75億円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が343億67百万円、資本剰余金が351億19百万円となっております。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	112,192	4,473	5,486	3,087	125,239	—	125,239
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,332	3,715	145	7,192	△7,192	—
計	112,192	7,805	9,201	3,232	132,432	△7,192	125,239
セグメント利益	3,674	150	130	57	4,013	17	4,030

(注)1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益の調整額17百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	116,177	5,067	5,422	2,999	129,666	—	129,666
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,275	3,680	152	7,108	△7,108	—
計	116,177	8,343	9,102	3,152	136,775	△7,108	129,666
セグメント利益又は損失(△)	4,479	206	174	△4	4,855	2	4,858

(注)1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額2百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。